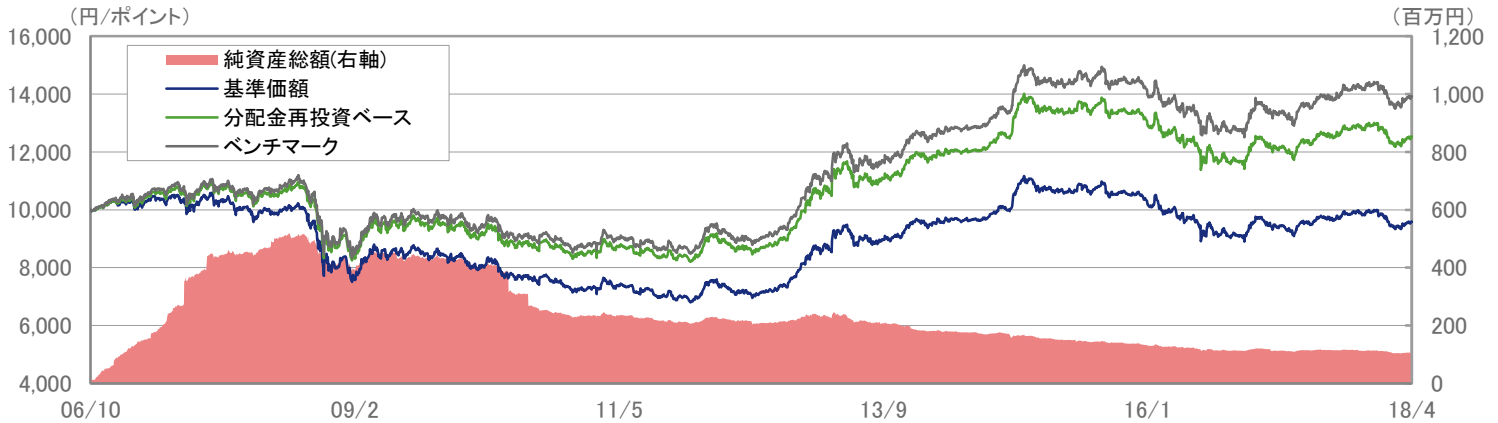


■ 基準価額・純資産総額の設定来推移



※1 分配金再投資ベースは分配金(課税前)を再投資したもとして計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。

また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。

※2 ベンチマークの設定来推移は、設定日を10,000として指数化したものです。

※3 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

■ 設定来の運用実績

	基準価額 (分配金再投資)		ベンチマーク (FTSE世界国債インデックス(除く 日本、当社円換算ベース))		差異 ①-② (%)
	(円)	①騰落率(%)	(ポイント)	②騰落率(%)	
当月末	12,520	-	113,447	-	-
過去1ヵ月	12,373	1.18	112,111	1.19	-0.01
過去3ヵ月	12,640	-0.96	114,202	-0.66	-0.30
過去6ヵ月	12,817	-2.32	115,508	-1.78	-0.53
過去1年	12,149	3.05	109,025	4.06	-1.01
過去3年	13,438	-6.83	117,706	-3.62	-3.22
設定日来	10,000	25.20	45,871	39.23	-14.03

※1 基準価額騰落率(分配金再投資)は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金(課税前)を再投資した場合の騰落率です。

また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。

※2 基準価額騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

■ 基準価額と純資産総額

	当月末	前月末	前月末比
基準価額 (円)	9,583	9,471	+112
純資産総額 (百万円)	106	105	+1

※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

	基準価額 (円)	日付
設定来高値	11,173	2014年12月8日
設定来安値	6,801	2012年1月10日

※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。

※2 設定来最高値及び設定来最安値は分配落ち後の基準価額で、該当した日付が複数日ある場合には、その初日を表示しております。

■ 運用資産構成比率

マザーファンド	比率(%)
外国債券	96.0
短期資産等	4.0
合計	100.0

※1 比率は純資産総額対比です。

※2 短期資産等には、コール、CD、CP、現先、未収金、未払金等が含まれます。

■ 分配実績

決算年月日	分配金(課税前)
2018/03/12	20円
2018/01/10	20円
2017/11/10	20円
2017/09/11	20円
2017/07/10	20円
2017/05/10	20円
2017/03/10	20円
2017/01/10	20円
2016/11/10	20円
2016/09/12	20円
2016/07/11	20円
2016/05/10	20円
設定来合計	2,380円

※1 1万口当たりの実績です。

※2 上記の分配金は、過去の実績であり、あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。運用状況によっては分配金が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

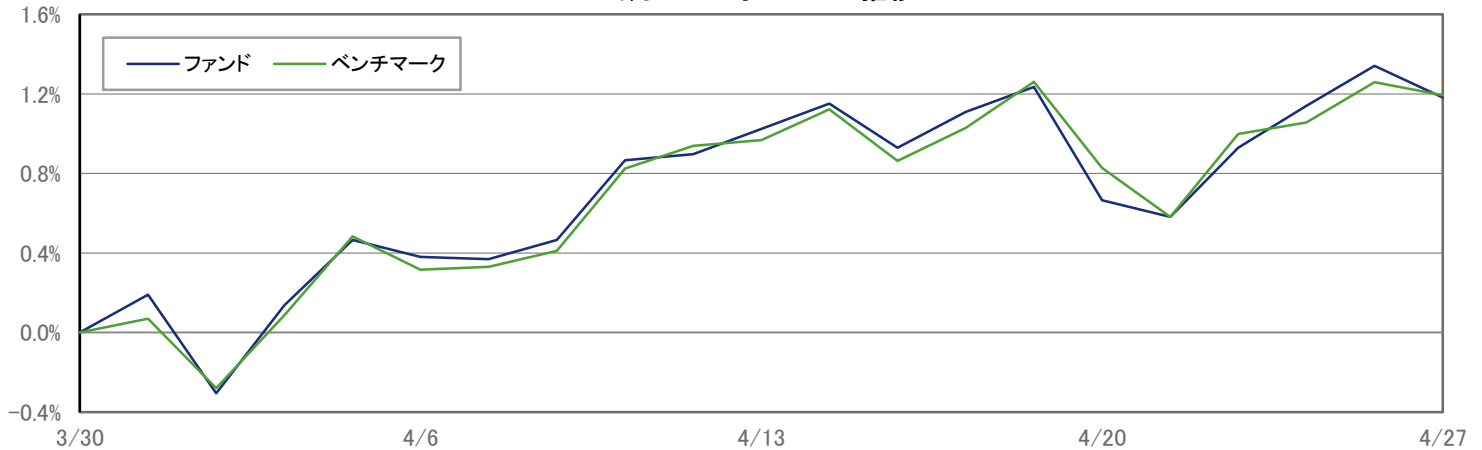
■ 運用概況

当月末の基準価額は、9,583円(前月比+112円)となりました。
また、税引前分配金を再投資した場合の月間騰落率は+1.18%となり、ベンチマークの月間騰落率は+1.19%となりました。

<運用担当者のコメント>

■ 4月の市場動向と運用状況

当月のパフォーマンス推移



※ 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

<参考/基準価額の要因分解>

	(単位:円)	(単位:%)
	基準価額	月次騰落率
2018年4月27日	9,583	-
2018年3月30日	9,471	-
増減	112	1.18
債券要因	-74	-0.78
キャピタル	-90	-0.95
うち現物	(-90)	(-0.95)
うち先物	(-)	(-)
インカム	16	0.17
為替要因	196	2.07
小計	123	1.29
その他要因	-11	-0.11
要因合計	112	1.18

※ 上記の要因分解は、主要項目別に寄与度を概算した参考値です。
 ※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

市場動向

米国債券については、米中貿易問題への警戒感が後退したことや、インフレ率の上昇を背景に米国長期金利は上昇しました。独国内債については、原油価格が上昇したことや、米国長期金利が上昇したことを受けて独国内債金利は上昇しました。為替については、ドル/円は、地政学リスクが後退したことや、米国長期金利が上昇したことを受けて円安・ドル高となりました。ユーロ/円については、欧州中央銀行(ECB)高官が金融緩和政策の縮小に前向きな発言をしたことを受けて、円安・ユーロ高となりました。

運用担当者のコメントは、受益者向けに投資信託の運用状況を開示するため、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー(以下、ウエリントン社)から提供された情報を元に、農林中金全共連アセットマネジメントが作成したものです。ウエリントン社からの情報は、海外市場の月末を基準として提供されており、ファンドの評価基準日とは一日異なります。また、上記コメントは、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

ファンド・レビュー

4月のファンドのパフォーマンスは前月比+1.18%、ベンチマークのパフォーマンスは前月比+1.19%、ファンドのベンチマークに対する相対パフォーマンスは-0.01%となりました。当ファンドが組入れているマザーファンドの4月のパフォーマンスをベンチマークと基準を揃えて比較すると、ファンドのパフォーマンスは以下の要因から、ベンチマークを上回りました。

- (+)デュレーション戦略はプラスに寄与しました。財政刺激策による景気拡大とインフレ率の上昇を踏まえると、米連邦準備制度理事会(FRB)は市場予想より利上げペースを速めるとの見方に基づき、米国短中期国債をアンダーウェイトとしたことはプラスに寄与しました。米国金利は原油価格の上昇やインフレ率の上昇を背景に上昇しました。米国を除いた世界経済の成長ペースが鈍化しているとの見通しに基づき、英国短期国債をオーバーウェイトとしたことは、英国短期金利が低下したことを受けてプラスに寄与しましたが、同じ見方に基づきフランス国債とニュージーランド国債をオーバーウェイトとしたことは、当該国の金利が上昇したためマイナスに寄与しました。
- (0)国別配分戦略の寄与は中立となりました。
- (0)イールドカーブ戦略の寄与は中立となりました。
- (0)通貨戦略の寄与は中立となりました。ユーロ圏対比で景気回復が先行している北欧圏の中央銀行は、ECBより早期に金融引き締めを行う可能性が高いとの見方に基づき、ユーロや英ポンドに対してスウェーデン・クローネをオーバーウェイトとしたことはマイナスに寄与しました。スウェーデン国立銀行はハト派な姿勢を維持しており、利上げ開始時期を先送りしたこと、スウェーデン・クローネは下落しました。一方、英国のEU離脱に関して、英国とEUの主張にはまだ大きな乖離があるとの見方に基づき、米ドルに対して英ポンドをアンダーウェイトとしたことはプラス寄与となり、マイナス寄与を相殺しました。英ポンドは、軟調な経済指標とカーニー・イングリッド銀行(BOE)総裁のハト派な発言により下落しました。
- (+)信用戦略はプラスに寄与しました。主要先進国全般に広がる経済成長の改善と良好な需給動向は引き続き社債市場の下支えとなる見方に基づき、金融セクターや産業セクターを中心に投資適格社債をオーバーウェイトとしたことは、米国社債の供給が減少する一方で利回りを追求する投資家の需要が増加し、スプレッドが縮小したためプラスに寄与しました。

■ 今後の市場見通しと運用方針

■米国を除く世界経済は減速しており、FRB以外の主要国の中央銀行はハト派な傾向を強めつつあります。FRBによる金融引き締めの影響が顕在化するにつれて、米国の経済成長ペースは若干減速すると予想しています。なお、ECBやBOEの金融政策正常化のペースは市場予想より緩やかで、一部のアジア経済は米国金利の上昇や米ドル高、景気減速の兆候が見られる中国の経済動向の影響を受けやすいと考えています。保護主義とポピュリズムが勢いを増すと予想される一方、米国以外の各国の経済成長の鈍化が目立つてきます。さらに、金融政策の正常化や財政刺激策によって国債発行が増加する見通しであることから、2018年のグローバルな国債の純発行量についても増加が見込まれます。こうした状況の中、デュレーションを機動的に変更することを検討します。通貨別では、米ドルならびに一部の欧州通貨(スウェーデン・クローネ)のオーバーウェイト、英ポンドのアンダーウェイトを検討します。

■債券:

【北米】米国の失業率は今後さらに低下すると見ており、インフレ率の上昇リスクが高まっています。財政刺激策や規制緩和が期待される一方、インフレ率の上昇を受けた米国の金融政策の引き締めや、保護主義の高まりを受けて市場の変動性が高まることも想定されます。こうした環境の中、米国のデュレーションをアンダーウェイトとすることを検討します。

【中国】中国経済の一時期の勢いは弱まりつつありますが、景気減速というよりむしろ緩やかな成長に移行した可能性が高いと考えています。鉱工業生産は減速していますが、消費と輸出は好調です。中国では、生産活動の減速を背景に金融政策について緩和的な政策が取られる傾向が強まっています。中国では依然として、米国との貿易摩擦に関する懸念が持続しています。

【オーストラリア】オーストラリア準備銀行(RBA)は賃金やコアインフレ率が確実に上昇するまで利上げに慎重な姿勢を示すと考えています。こうした中、オーストラリアのデュレーションをオーバーウェイトとすることを検討します。

【ユーロ圏】欧州景気は減速していますが、景気の持続性に関しては引き続き明るい見通しを維持しています。雇用指標が堅調で、賃金も上昇していることから、将来的にはコアインフレ率も回復すると予想しています。一方、足元の景気の減速やコアインフレ率の低迷を背景に、ECBが金融政策の引き締めを遅らせる可能性が高まっています。その間、FRBの金融政策との違いが際立つと思われることから、フランスのデュレーションをオーバーウェイトとすることを検討します。

【英国】EU離脱交渉の不透明感等を受けて、英国景気は大きく低迷しています。失業率は低下し、賃金も上昇していますが、インフレ率の上昇は見られません。こうした環境の中、BOEが利上げを実施する可能性は低下していることから、英国のデュレーションをオーバーウェイトとすることを検討します。

■通貨:

【米ドル】貿易摩擦問題や北朝鮮との地政学リスク等の懸念は和らいでおり、米国金利の上昇や相対的に堅調な米国の経済指標が米ドル高に繋がると考えます。そのため、米ドルをオーバーウェイトとする方針です。

【ユーロ】欧州景気は減速しており、FRBの金融政策との違いが際立つと思われることから、ユーロをアンダーウェイトとする方針です。

【英ポンド】英国景気は低迷しており、インフレ率にも上昇の兆しが見られないことから、BOEの利上げの可能性は低下したと考えており、英ポンドをアンダーウェイトとする方針です。

【スウェーデン・クローネ】ユーロ圏対比で景気回復が先行している北欧圏の中央銀行は、国内景気の拡大を認識し、ECBより早期に金融引き締めを迫られる可能性が高いとの見通しから、スウェーデン・クローネをオーバーウェイトとする方針です。

【豪ドル】米国金利の上昇や国内需要の低迷によって、高金利通貨は厳しい環境を強いられることが予想されることから、豪ドルを中立とすることを検討します。

■信用セクター:

グローバル経済の拡大や主要国の中央銀行が継続している金融緩和策、社債の需給バランスを考慮すると、信用スプレッドは縮小すると考えられます。米国では、税制改革により社債の純発行量が減少することが見込まれます。金融セクターは法人税率引き下げや金融規制緩和から特に恩恵を受けると考えられます。また、欧州圏の銀行の不良債権の削減が続くと見られることから、欧州では信用ファンダメンタルズがさらに改善すると考えられます。こうした見通しに対するリスクとしては、インフレ圧力の高まりを背景に、市場が想定するよりも早く金融政策の引き締めを実施する可能性を想定しています。このような環境下、米国と欧州の投資適格社債を選択する方針です。

※運用担当者のコメントは4月末時点のものです。また、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

運用担当者のコメントは、受益者向けに投資信託の運用状況を開示するため、ウエルントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー(以下、ウエルントン社)から提供された情報を元に、農林中金全連アセットマネジメントが作成したものです。ウエルントン社からの情報は、海外市場の月末を基準として提供されており、ファンドの評価基準日とは一日異なります。また、上記コメントは、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

＜マザーファンドの運用状況＞

■ 国別組入比率とデュレーション

国名	① 組入比率 (%)		② 修正デュレーション(年)	
	ファンド [*]	ベンチマーク	ファンド [*]	ベンチマーク
米国	29.5	42.5	6.42	5.98
カナダ	2.7	2.1	5.07	6.26
イギリス	11.9	7.1	7.76	12.42
ユーロ	42.1	41.7	7.73	7.65
ドイツ	6.5	7.1	8.18	7.46
フランス	11.5	10.4	8.27	8.10
アイルランド	0.6	0.9	9.03	6.93
イタリア	10.3	10.1	6.70	6.96
オーストリア	1.5	1.6	8.95	8.89
オランダ	2.1	2.2	8.09	7.97
スペイン	6.7	6.2	6.77	7.35
フィンランド	0.5	0.6	6.95	6.48
ベルギー	2.4	2.6	9.75	9.32
その他	-	-	-	-
スイス	0.2	0.2	3.92	4.21
スウェーデン	0.5	0.4	4.31	6.47
ポーランド	0.7	0.7	3.56	4.26
デンマーク	0.7	0.6	7.64	8.48
ノルウェー	0.6	0.3	1.58	4.28
オーストラリア	3.2	2.1	8.79	6.47
シンガポール	0.4	0.4	5.00	6.35
マレーシア	-	0.5	-	6.06
メキシコ	0.9	0.8	4.44	5.38
南アフリカ	-	0.7	-	7.69
ニュージーランド	2.7	-	4.39	5.61
債券合計	96.0	100.0	7.06	7.15
その他	4.0	-	-	-
合計	100.0	100.0	-	-

※1 比率は純資産総額対比です。

※2 加重デュレーションは、国別に修正デュレーション×組入比率で算出したものであり、金利エクスポージャーの大きさを表す数値です。

■ 組入上位10銘柄

順位	銘柄名	国名	通貨	クーポン(%)	償還日	組入比率(%)	分類
1	GILT 2.0 200722	イギリス	英ポンド	2.000	2020/7/22	5.8	国債
2	T-BOND 3.0 451115	アメリカ	米ドル	3.000	2045/11/15	4.5	国債
3	T-NOTE 1.0 190930	アメリカ	米ドル	1.000	2019/9/30	4.0	国債
4	T-NOTE 1.625 191231	アメリカ	米ドル	1.625	2019/12/31	3.3	国債
5	T-BILL 0 180628	アメリカ	米ドル	0.000	2018/6/28	3.1	国債
6	NZDGOV 5.5 230415	ニュージーランド	ニュージーランドドル	5.500	2023/4/15	2.8	国債
7	BUND 0.25 270215	ドイツ	ユーロ	0.250	2027/2/15	2.4	国債
8	OAT 2.25 240525	フランス	ユーロ	2.250	2024/5/25	1.8	国債
9	T-NOTE 3.125 210515	アメリカ	米ドル	3.125	2021/5/15	1.7	国債
10	T-BOND 4.5 360215	アメリカ	米ドル	4.500	2036/2/15	1.5	国債

※ 比率は外国債券現物対比です。

組入銘柄数: 177銘柄

■ 通貨別組入比率

(%)

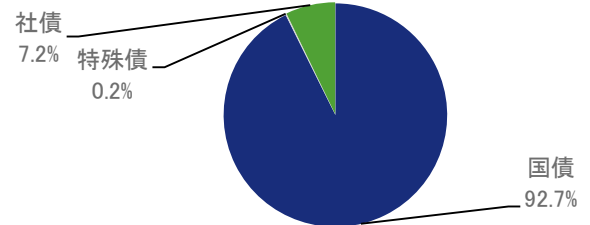
通貨	ファンド [*]	ベンチマーク	差
米ドル	42.7	42.5	0.2
ユーロ	41.8	41.7	0.2
英ポンド	6.0	7.1	-1.0
カナダドル	2.1	2.1	-0.1
その他(円除く)	6.8	6.6	0.1
合計	99.4	100.0	-0.6

※ 比率は純資産総額対比です。

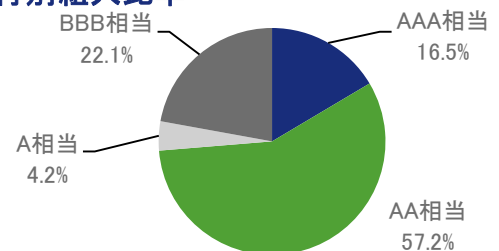
■ 保有債券の属性

	ファンド [*]	ベンチマーク	差
平均利回り(%)	1.56	1.78	-0.22
平均クーポン(%)	2.36	2.59	-0.22
平均残存期間(年)	8.81	8.61	0.20
修正デュレーション(年)	7.06	7.15	-0.09

■ セクター別組入比率



■ 格付別組入比率

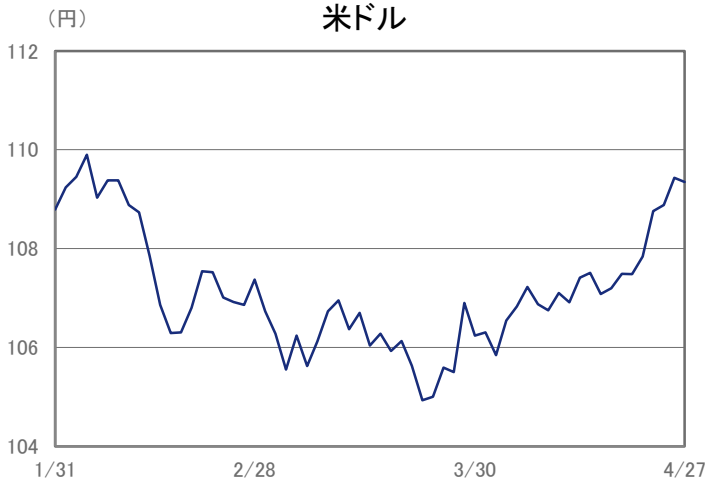


※1 比率は外国債券現物対比です。

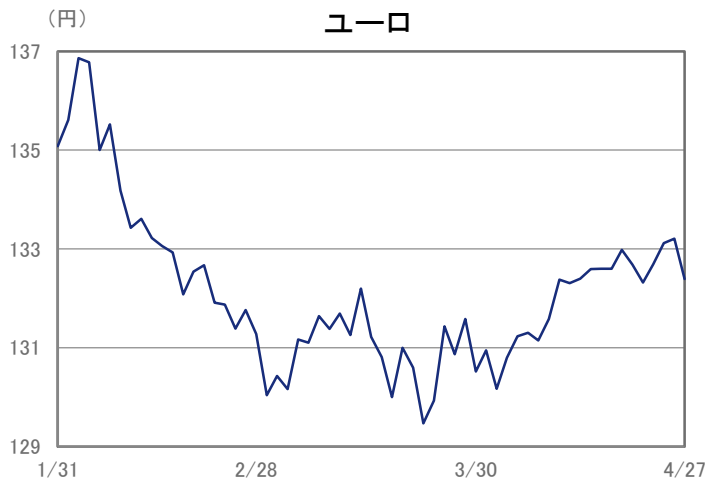
※2 格付けは、原則としてS&P社、Moody's社のうち低位のものを採用しています。

<参考>市場動向(マーケット指標の推移)

■ 為替相場



■ 債券市場



当ファンドは、公社債などの値動きを生じる証券(外貨建資産には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は日々変動します。従って元金が保証されるものではありません。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくこととなります。当資料は当社が信頼できると判断したデータにより作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。投資信託は貯金(預金)保険制度の対象ではありません。当資料は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

商品の特色

- 当ファンドは、JA海外債券マザーファンドを主要投資対象とし、マザーファンドを通じて、日本を除く世界各国の公社債を中心に投資を行います。
- マザーファンドの運用にあたっては、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー、ウエリントン・マネージメント香港リミテッドおよびウエリントン・マネージメント・インターナショナル・リミテッドに外貨建資産の運用および為替取引の指図に関する権限を委託します。
- 当社が円ベースに換算したFTSE世界国債インデックス(除く日本)をベンチマークとし、ファンダメンタルズ分析と計量分析を併用した手法により運用を行い、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。
- ポートフォリオ全体の平均格付(保有している有価証券に係る信用格付けを加重平均したもの)は、原則としてA格以上を維持することとします。外貨建資産については、原則として対円為替ヘッジは行いません。
- 毎決算時に安定した分配を継続的に行うことを目指します。

■ お申込みメモ

- 購入 いつでもご購入いただけます。ただし、ニューヨーク証券取引所の休場日またはニューヨークの銀行の休業日にはご購入の申込みの受付を行いません。
- 購入単位 販売会社が定める単位
- 購入価額 購入申込日の翌営業日の基準価額
- 購入時手数料 購入申込日の翌営業日の基準価額に1.62%(税抜1.50%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額とします。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 信託設定日 2006年10月16日
- 信託期間 無期限
- 信託報酬 純資産総額に対して年1.296%(税抜1.20%)
- 決算日 毎年1、3、5、7、9、11月の各10日、各々休業日の場合は翌営業日
- 収益分配 利子・配当収入を中心に委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定するものとし、原則として安定した分配を継続的に行うことを目指します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。分配金は、原則として決算日から起算して5営業日目までに支払いを開始します。「分配金再投資(累積投資)コース」の場合は、収益分配金は税金を差し引いた後、自動的に無手数料で再投資されます。
- 換金 いつでも解約請求によってご換金いただけます。ただし、ニューヨーク証券取引所の休場日またはニューヨークの銀行の休業日にはご換金の申込みの受付を行いません。
- 換金単位 1口単位
- 換金価額 換金申込日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
- 信託財産留保額 換金申込日の翌営業日の基準価額に0.20%を乗じた額
- 換金代金の支払い 換金代金は原則として換金申込日から起算して5営業日目から支払いを行います。
- 税金 <個人のお客様の場合>
 - ・ 収益分配時の普通分配金については、配当所得として取り扱われ、課税されます。
 - ・ 換金時ならびに償還により交付を受ける金銭等は、譲渡所得とみなし、譲渡益に対し課税されます。
 <法人のお客様の場合>
 - ・ 収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の個別元本超過額に対し課税されます。
 ※税制が改正された場合等には、上記の内容が変更となることがあります。詳しくは、販売会社、税務署などへお問い合わせください。

ニューヨーク証券取引所の休場日またはニューヨークの銀行の休業日には、購入、換金のお申込みの受付を行いません。金融商品取引所や外国金融商品市場における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときには、購入、換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受け付けた購入、換金のお申込みを取り消す場合があります。

■ 委託会社、その他の関係法人

- 委託会社 : 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第372号 一般社団法人 投資信託協会会員/一般社団法人 日本投資顧問業協会会員)
信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。
: ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー、ウエリントン・マネージメント香港リミテッドおよびウエリントン・マネージメント・インターナショナル・リミテッド(投資顧問会社)
当ファンドの直接の関係法人ではありませんが、委託会社よりJA海外債券マザーファンドにおける外貨建資産の運用および為替取引の指図に関する権限の委託を受けて投資判断・発注等を行います。
- 受託会社 : 三菱UFJ信託銀行株式会社(再信託受託会社:日本マスタートラスト信託銀行株式会社)
追加信託に係る振替機関への通知等、信託財産の保管・管理・計算等を行います。
- 販売会社 : 以下をご覧ください。
ファンドの募集の取扱い・販売、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

販売会社等につきましては、以下の照会先までお問い合わせください。

◆農林中金全共連アセットマネジメント株式会社

ホームページ : <http://www.ja-asset.co.jp/>

フリーダイヤル : 0120-439-244(受付時間:営業日の午前9時~午後5時)

お申込、投資信託説明書(交付目論見書)のご提供は

主なリスクと手数料

下記の事項は、この投資信託(以下、「当ファンド」という。)をお申込みされる投資家の皆様にあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項としてお知らせするものです。

お申込みの際には、下記の事項および投資信託説明書(交付目論見書)の内容をよくお読みください。

■ 当ファンドに係るリスクについて

当ファンドは、主に日本を除く世界各国の公社債を実質的な投資対象としますので、海外金利の上昇による組入公社債の価格の下落や、組入公社債の発行会社等の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資を行いますので、為替の変動により損失を被ることがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「金利変動リスク」「為替変動リスク」「信用リスク」などがあります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

■ 当ファンドに係る手数料等について

■ 申込手数料(1口当たり)・・・申込時にご負担いただくものです。

お申込日の翌営業日の基準価額に1.62%(税抜1.50%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額とします。

※詳しくは販売会社もしくは申込手数料を記載した書面にてご確認ください。

■ 換金(解約)手数料・・・換金時にご負担いただくものです。

ありません。

■ 信託報酬・・・保有期間中に間接的にご負担いただくものです。

ファンドの純資産総額に年1.296%(税抜年1.20%)の率を乗じて得た額とします。

■ 信託財産留保額(1口当たり)・・・換金時にご負担いただくものです。

換金申込受付日の翌営業日の基準価額に0.20%の率を乗じて得た額とします。

■ 監査費用・・・保有期間中に間接的にご負担いただくものです。

ファンドの純資産総額に年0.00324%(税抜年0.003%)の率を乗じて得た額とします。

■ その他の費用(*)

有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引、オプション取引等に要する費用、外国における資産の保管時に要する費用、信託事務の処理に要する諸費用、信託財産に関する租税、受託者の立て替えた立替金の利息、資金借り入れを行った場合の借入金利

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「費用と税金」をご覧ください。

(*)「その他の費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。当該手数料等の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

留意事項

■ 当資料は、農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(以下、「当社」といいます。)が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

■ 当資料は当社が信頼できると判断したデータ等により作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。市場環境等の見直しにつきましても、その確実性を保証するものではありません。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。

■ 当ファンドは、公社債などの値動きの生じる証券(外貨建資産には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は日々変動します。したがって、元金および収益分配が保証されるものではなく、投資元本を割り込むことがあります。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくこととなります。

■ 投資信託は預貯金や保険商品とは異なり、預金(貯金)保険機構、保険契約者保護機構の保護対象ではありません。投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。

■ ご購入の際は、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受取りいただき、詳細をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。

■ FTSE世界国債インデックス(除く日本・当社円換算ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックス、FTSE世界国債インデックス(米ドルベース)をもとに、FTSE Fixed Income LLCの承諾を得て、当社が独自に円換算したものです。